

テニス

スペシャルオリンピックス(SO)のテニス公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックステニス競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは国際テニス連盟(ITF)のルール(参照：<http://www.itftennis.com/>)を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのテニス公式スポーツルールおよびスポーツルール第 章 総則と矛盾する場合以外はITFあるいは国内テニス連盟(NGB)のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのテニス公式スポーツルールが適用される。

参考:スペシャルオリンピックス スポーツルール第 章 総則

http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

セクション A - 公式種目

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

1. 個人技能競技 (ISC)
2. シングルス
3. ダブルス
4. 混合ダブルス
5. ユニファイドスポーツ® ダブルス
6. ユニファイドスポーツ® 混合ダブルス

セクション B 競技ルール

1. ディビジョニング

アスリートは、テニス評価フォームに基づいてディビジョニングされる。各アスリートに対するテニス評価フォームは、イベント登録パッケージと共に提出しなければならない。テニス評価フォームは、テニス用公式スペシャルオリンピックススポーツルールのセクションCに記載されている。

2. マッチプレー

- a. マッチは次のうち1つから成る：
 - 1) 6ゲーム1セットの試合。

アドバンテージ・ゲームは無く、対戦相手に2ゲーム以上の差をつけ、6ゲームを先取した選手またはチームが勝者である。6ゲームオールになった場合、7ポイント先取のタイブレーク・ゲームが行われる。

2) 2セット先取の短縮ゲームセットによる試合。

対戦相手に2ゲーム以上の差をつけ、1セットの内4ゲームを先取した選手またはチームがそのセットの勝者である。スコアが4ゲームオールになった場合、7ポイント先取のタイブレーク・ゲームが行われる。セットカウントが1セットオールになった場合も、試合の勝者を決めるため、7ポイント先取のタイブレーク・ゲームが行われる。この場合のタイブレーク・ゲームはファイナル・セットの代わりとなる。

- b. 全ての試合で、ノーアドバンテージ・スコアリング方式が適用される。ノーアドバンテージの試合方法：先に4ポイントを取得した選手がゲームの勝者となり、ゲームの7ポイント目が、必ず勝敗を決めるゲームポイントとなる。7ポイント目に到達した際、レシーバーはアドバンテージコートでレシーブするか、デュースコートでレシーブするかを選ぶことができる。

注：スコアのコールは従来の方式か、通常の数値、すなわち「0、1、2、3、ゲーム」のどちらかを用いる。

- c. スペシャルオリムピクスより認定を受けたコーチ1人がコートに座っても構わない（座る椅子は、コート面の外、ネットポストの横の審判の椅子の隣とする）。コーチは、選手が奇数番目のゲームの終わりにエンドチェンジをする際、選手に指導しても構わないが、各セットの第一試合の後や、タイブレーク中に行ってはならない。

3. ユニファイドスポーツ® ダブルス

- a. ユニファイドスポーツ® ダブルスの各ペアは、アスリート1名とパートナー1名より成る。
- b. 各ペアは、2人のサービスの順番とコートの位置(アドバンテージかデュースコート)を決める。

4. 個人技能競技

注：競技責任者は個人技能競技が行われる各競技会において、どの種類のボールを使用するかを指定しなければならない。これらは従来のテニスボール、低圧のボール、もしくはスポンジ状のボールでもよい。個人技能競技で使用されるボールは、プロテニス協会(PTR)公認のスピードボール®が推奨される。

a. フォアハンドボレー

- 1) アスリートはネットから約1m離れて立ち、球出しの人は反対側のコートのサービスマインとネットの中間に立つ。アスリートにはボールが5回出され、ネットの向

こう側にうまくボールを打ち込めるかを競う。球出しの人は、アスリートのフォアハンド側に下手投げでトスする。

- 2) アスリートは、バックコート内、つまりベースライン、サービスライン、シングルスサイドラインに囲まれる範囲に打ち返すと、10 ポイントが与えられる。どちらかのサービスボックス内に打ち返すと、5 ポイントが与えられる。

b. バックハンドボレー

- 1) 球出しをアスリートのバックハンド側に行う以外は、フォアハンドボレーと同様である。1人のアスリートにつき5回挑戦する。

c. フォアハンド・グランドストローク

- 1) アスリートはベースライン上、またはその後ろに立つ。球出しの人は、同じコートのネットとサービスラインの中間に立ち、下手投げでボールをトスし、ワンバウンドしてからアスリートのフォアハンド側に届くようにする。1人のアスリートにつき5回挑戦する。
- 2) アスリートは、バックコート内、つまりベースライン、サービスライン、シングルスサイドラインに囲まれる範囲に打ち返すと、10 ポイントが与えられる。どちらかのサービスボックス内に打ち返すと、5 ポイントが与えられる。

d. バックハンド・グランドストローク

- 1) 球出しをアスリートのバックハンド側に行う以外は、フォアハンド・グランドストロークと同様である。1人のアスリートにつき5回挑戦する。

e. サーブ — デュースコート

- 1) アスリートは、右側のコートからデュースコートのサービスボックスに、5回サーブを打つ。正しいサービスボックスにボールが入ると、10 ポイントが与えられる。アスリートがフットフォルトを取られた場合、もしくはサービスボックス内にボールが入らなかった場合、0 ポイントとなる。フットフォルトとみなされるのは、アスリートがベースライン、あるいはセンターマークやサイドラインの仮想延長線上を踏んだり越えたりした場合である。

f. サーブ — アドバンテージコート

- 1) 左側のコートからアドコートのサービスボックスにサーブする以外は、デュースコートの場合と同様である。1人のアスリートにつき5回挑戦する。

g. 動きを伴う左右交互のグランドストローク

- 1) アスリートはセンターマークの上、あるいはベースラインの後ろに立つ。球出しの

人は同じコートサイドのサービスラインとネットの間に立ち、アスリートのフォアハンド側とバックハンド側へ交互にボールをトスする。球出しは、全てサービスラインとベースラインの間地点で、かつセンターマークとシングルスサイドラインの間地点に行うようにすること。次のボールが出される前に、アスリートはセンターマークまで戻ることができる余裕が与えられなければならない。1人のアスリートにつき10回挑戦する。

- 2) アスリートは、バックコート内、すなわちベースライン、サービスライン、シングルスサイドラインに囲まれる範囲に打ち返すと、10ポイントが与えられる。どちらかのサービスボックス内に打ち返すと、5ポイントが与えられる。

h. 最終得点

- 1) アスリートの最終得点は、個人技能競技を構成する上記7種目のそれぞれの成績を合計することによって決定される。

セクション C スペシャルオリンピックス テニスレイティングフォーム

レベル 1

(このレベルのアスリートは個人技能競技で競わなければならない)

- ・ テニスを始めたばかりの選手 (スコア : 1)
- ・ 個人技能競技に適している (スコア : 1)

スコア:

A. フォアハンド (アスリートのスキルに最も適した項目のスコアを記入する)

- ・ FH ショットを打つことが困難である (スコア : 2)
- ・ 不安定で、弱い FH ショットを打つことができる (スコア : 3)
- ・ コースは選べないが、FH ショットを打つことができる (スコア : 4)
- ・ FH & BH ショットを使った短いラリーを継続することができる (スコア : 5)
- ・ コースを選びながらラリーを継続することができる (スコア : 6)
- ・ 安定し、且つ深い場所でのラリーを継続することができる (スコア : 7)
- ・ 高度なラリーを継続することができる (スコア : 8)

スコア:

B. バックハンド (アスリートのスキルに最も適した項目のスコアを記入する)

- ・ BH ショットを打つことが困難である (スコア : 2)
- ・ 不安定で、弱い BH ショットを打つことができる (スコア : 3)
- ・ コースは選べないが、BH ショットを打つことができる (スコア : 4)
- ・ 深さはないが、コースを選んで BH ショットを打つことができる (スコア : 5)
- ・ 守備的に難易度の高いショットを返すことができる (スコア : 6)
- ・ ハイショット & ハードショットが困難である (スコア : 7)
- ・ コース・ペース・深さの面において、FH & BH ショットをコントロールすることができる (スコア : 8)

スコア:

C. ムーブメント (アスリートのスキルに最も適した項目のスコアを記入する)

- ・ 固定されたポジション : 打とうとボールの方へ動こうとしない (スコア : 2)
- ・ 打つためにボールに向かって 1~2 歩動く (スコア : 3)
- ・ ボールに向かって動く : しかし、コートカバー力は低い (スコア : 4)
- ・ 大抵のショットに対し、十分なコートカバー力を発揮する動きができる (スコア : 5)
- ・ 優れたコートカバー力 (スコア : 6)
- ・ 優れたコートカバー力に、守備的なロブと安定しないオーバーヘッドを打つ (スコア : 7)
- ・ 優れたコートカバー力に、守備的なロブと安定したオーバーヘッドを打つ (スコア : 8)

スコア:

D. ファーストサーブ (アスリートのスキルに最も適した項目のスコアを記入する)

- ・ ファーストサーブが弱い (スコア : 2)
- ・ ファーストサーブのフォルトがよく起こる (スコア : 3)
- ・ スピードの遅いファーストサーブを打つ (スコア : 4)
- ・ スピードのあるファーストサーブを打つ (スコア : 6)
- ・ スピードをつけ、コースを狙ってファーストサーブを打つ (スコア : 8)

スコア:

E. セカンドサーブ (アスリートのスキルに最も適した項目のスコアを記入する)

- ・ ダブルフォルトがよく起こる (スコア : 2)
- ・ コントロールしたセカンドサーブをプッシュすることができる (スコア : 4)
- ・ コントロールしたセカンドサーブを打つことができる (スコア : 6)
- ・ コントロールに深さをつけたセカンドサーブを打つことができる (スコア : 7)
- ・ スピン、コントロール、深さをつけたセカンドサーブを打つ (スコア : 8)

スコア:

F. サーブのリターン (アスリートのスキルに最も適した項目のスコアを記入する)

- ・ サーブをリターンするのが困難である (スコア : 2)
- ・ 時折、サーブをリターンすることができる (スコア : 3)
- ・ セカンドサーブを一貫してリターンすることができる (スコア : 4)
- ・ ファーストサーブはある程度、セカンドサーブは一貫してリターンすることができる (スコア : 5)
- ・ ファースト&セカンドサーブを一貫してリターンすることができる (スコア : 6)
- ・ セカンドサーブを攻撃的にリターンすることができるが、ファーストサーブのリターンは弱い (スコア : 7)
- ・ ファースト&セカンドサーブを攻撃的にリターンすることができる (スコア : 8)

スコア:

G. ボレー (アスリートのスキルに最も適した項目のスコアを記入する)

- ・ ネットを避ける (スコア : 2)
- ・ ボレーを打たない、ネットを避ける (スコア : 3)
- ・ 一定していないボレーを打つ、ネットを避ける (スコア : 4)
- ・ 安定した FH ボレーを打つ、BH ボレーは一定しない (スコア : 5)
- ・ 攻撃的な FH ボレーを打つ、守備的な BH ボレーを打つ (スコア : 6)
- ・ 攻撃的な FH & BH ボレーを打つ (スコア : 8)

スコア:

上記 A ~ G のスコアの合計

合計スコア :

総合評価の決定。上記の合計スコアを 7 で割る。

(小数第 2 位で四捨五入。例 : $4.97 = 5.0$ 、 $3.53 = 3.5$)

総合評価 :

< スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点 >

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。